



野方・三谷囃子連による奉納舞



童謡歌手・雨宮知子さんが熱唱



子供達が語る「とんとん昔話」



元横囃子連鼓会によるおはやし(写真提供・高尾山商店会)

高尾山もみじまつり開催
十二月二日～三十日



犬山由紀子ちゃん



菅谷実晴ちゃん



飯沢青空君

七五三おめでとう

秋の高尾山へ参拝
高尾山と御縁を頂いて

大願寺 比嘉 宥海

高尾山薬王院様との御縁を頂くようになりましてから三年になります。大山隆玄御貫首様の寛大なご理解を頂き、法務課長の佐藤秀仁師や上村公昭師が沖繩に来られ、修験道のご指導を仰ぐことができました。修験部長の中原秀英師からは、修験道と柴燈大護摩供のご講義を賜りました。

また、当寺からは三月に行われます、「高尾山火渡り祭」に二度参加させて頂きました。

今回の団参は、平成八年六月三十日に私の師僧宮坂宥洪御導師のもと、当寺の本尊不動明王を開眼してから、二十年の節目に当たり、記念行事として長野県岡谷市の照光寺と、高尾山薬王院様への団参を企画致しまし

た。お護摩の前には佐藤秀仁師の心打たれるご法話を拝聴しました。上村公昭師には、諸堂をご案内していただきました。当日は、平日にも関わらず、お山には幼稚園児や小学生から大人まで大勢の人で賑わっていました。またテレビの撮りもあり、一層の賑いでした。

お山がこのように発展するまでには、長い苦難の歴史を乗り越えて修行したお坊さんや、御信徒の皆様のおかげがあったのであろうと思いを馳せました。今回初めて参拝し



御信徒の皆様と記念撮影(筆者前列中央)

た信徒の皆さんも深く感動しておりました。私は在家から得度して僧侶になつて二十三年ですが、まだ第一歩を踏み出したばかりです。いつの日か、参拝客で賑わうお寺となれるように、日々精進したいと思つています。これからも高尾山薬王院様との御縁を大切にしたいと願つておる次第です。

合掌

高尾山

四季の草花

104

ノササゲ 野大角豆

マメ科・ササゲ属



「ノササゲ」の語源は野菜の「ササゲ」から来ています。「ササゲ」の実是最初、上向きに付くので、「捧げ」の「実」として転訛してこの名前となり、似た草が野に咲く事からこの名前になっています。「大角豆」の漢字は、平安時代の古書に「大角豆」と書いて、「ササゲ」と記されています。花は初秋に長さ七センチほどの細長い筒状で、黄色い花が咲きます。「トキリマメ」という植物があり、ほぼ同じ時期に「ノササゲ」と形、色が似ている花を咲かせます。見分け難いですが、葉の形や花がやや小さいので、判別できると思います。

花後「トキリマメ」は赤い莢になり、莢が割れると黒い実が見えます。「ノササゲ」は紫色の細長い莢となり、莢が割れると青藍色の実が見えます。

「ノササゲ」は細長い「莢」なので、割れ方が色々ありユニークです。

(撮影・文 中村 毅人)